

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年10月10日
【四半期会計期間】	第60期第3四半期（自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日）
【会社名】	アスカ株式会社
【英訳名】	ASKA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 杉本 篤哉
【本店の所在の場所】	愛知県刈谷市一里山町東吹戸11番地
【電話番号】	0566(36)7771(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 総務・経理・経営管理担当 竹之内 敏昭
【最寄りの連絡場所】	愛知県刈谷市一里山町東吹戸11番地
【電話番号】	0566(36)7771(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 総務・経理・経営管理担当 竹之内 敏昭
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第3四半期連結 累計期間	第60期 第3四半期連結 累計期間	第59期
会計期間	自平成23年12月1日 至平成24年8月31日	自平成24年12月1日 至平成25年8月31日	自平成23年12月1日 至平成24年11月30日
売上高(千円)	15,086,290	13,604,740	19,624,950
経常利益(千円)	466,402	433,364	583,193
四半期(当期)純利益(千円)	230,188	229,925	273,660
四半期包括利益又は包括利益(千円)	318,203	706,477	426,295
純資産額(千円)	4,563,644	5,303,321	4,676,780
総資産額(千円)	17,346,613	17,364,147	17,385,441
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	40.32	40.27	47.93
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	26.3	30.5	26.9

回次	第59期 第3四半期連結 会計期間	第60期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年6月1日 至平成24年8月31日	自平成25年6月1日 至平成25年8月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	24.53	6.79

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、第2四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

- 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等が行われておりません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代後の経済対策や日銀の金融政策への期待感から円高の是正と株価の上昇が進み景気に持ち直しの兆しがみられましたが、欧州の財政問題や新興国の成長鈍化等、景気の下振れリスクが残っており、引き続き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなかで、当社グループは提案型の営業を積極的に展開するとともに、より効率的な製造体制を目指して、技術開発及び合理化活動を強力に推進しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高136億474万円（前年同四半期比9.8%減）、営業利益は2億112万円（前年同四半期比49.1%減）、経常利益は4億3,336万円（前年同四半期比7.1%減）、四半期純利益は2億2,992万円（前年同四半期比0.1%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第2四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### 〔自動車部品事業〕

エコカー購入支援政策の終了に伴い生産量が減少した結果、当事業の売上高は91億2,708万円（前年同四半期比14.6%減）となりました。

#### 〔配電盤事業〕

新規得意先への受注拡大を積極的に展開しましたが、当事業の売上高は15億6,313万円（前年同四半期比20.1%減）となりました。

#### 〔ロボットシステム事業〕

自動車部品メーカーの海外工場向けの自動化システムが好調に推移した結果、当事業の売上高は20億3,853万円（前年同四半期比0.2%増）となりました。

#### 〔モータースポーツ事業〕

前第2四半期連結会計期間末より連結開始した子会社株式会社岡山国際サーキットの売上高の通年寄与の結果、当事業の売上高は6億8,594万円（前年同四半期比233.5%増）となりました。

#### 〔人材教育事業〕

新規得意先に対する受注活動を積極的に展開しましたが、当事業の売上高は1億9,004万円（前年同四半期比6.7%減）となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は4,295万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年10月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,715,420	5,715,420	名古屋証券取引所(市場 第二部)	単元株式数100株
計	5,715,420	5,715,420	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年6月1日～ 平成25年8月31日	-	5,715,420	-	903,842	-	901,555

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,709,000	57,040	-
単元未満株式	普通株式 720	-	-
発行済株式総数	5,715,420	-	-
総株主の議決権	-	57,040	-

(注) 証券保管振替機構名義の株式5,000株は、完全議決権株式(その他)欄の株式数に含まれておりますが、同機構名義に係る議決権50個は、同欄の議決権の数には含まれておりません。

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アスカ(株)	愛知県刈谷市一里山町東吹戸11番地	5,700	-	5,700	0.10
計	-	5,700	-	5,700	0.10

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役(PT.AUTO ASKA INDONESIA 代表取締役)	取締役(自動車部品事業部営業部長、PT.AUTO ASKA INDONESIA代表取締役)	奥山 和久	平成25年8月16日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年12月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,391,970	1,145,868
受取手形及び売掛金	2,810,848	2,708,688
商品及び製品	108,251	117,009
仕掛品	981,512	628,473
原材料及び貯蔵品	261,725	258,326
その他	790,797	621,566
流動資産合計	6,345,105	5,479,933
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,991,313	2,999,728
機械装置及び運搬具(純額)	1,502,203	1,203,526
土地	3,901,631	3,901,631
その他(純額)	613,375	1,440,034
有形固定資産合計	9,008,522	9,544,921
無形固定資産	18,671	15,985
投資その他の資産		
投資有価証券	1,131,683	1,489,145
その他	881,457	834,161
投資その他の資産合計	2,013,141	2,323,306
固定資産合計	11,040,335	11,884,213
資産合計	17,385,441	17,364,147
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,913,249	1,779,036
短期借入金	1,650,000	660,000
1年内返済予定の長期借入金	1,908,828	2,176,781
未払金	1,671,383	1,587,518
未払法人税等	48,197	157,221
賞与引当金	14,432	138,609
その他	686,483	457,045
流動負債合計	7,892,574	6,956,212
固定負債		
長期借入金	3,891,597	4,118,818
退職給付引当金	563,600	613,504
役員退職慰労引当金	245,790	261,165
その他	115,098	111,124
固定負債合計	4,816,086	5,104,612
負債合計	12,708,660	12,060,825

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	903,842	903,842
資本剰余金	901,555	901,555
利益剰余金	2,732,669	2,882,659
自己株式	3,505	3,505
株主資本合計	4,534,562	4,684,552
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	133,334	448,753
為替換算調整勘定	3,808	163,615
その他の包括利益累計額合計	137,143	612,368
少数株主持分	5,074	6,400
純資産合計	4,676,780	5,303,321
負債純資産合計	17,385,441	17,364,147



## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)
売上高	15,086,290	13,604,740
売上原価	13,724,561	12,428,235
売上総利益	1,361,729	1,176,504
販売費及び一般管理費	966,901	975,383
営業利益	394,827	201,121
営業外収益		
受取利息	729	9,118
受取配当金	17,698	19,555
為替差益	372	140,873
その他	98,402	111,645
営業外収益合計	117,202	281,194
営業外費用		
支払利息	38,727	38,149
その他	6,900	10,801
営業外費用合計	45,628	48,951
経常利益	466,402	433,364
特別損失		
減損損失	-	62,040
投資有価証券売却損	4,906	-
投資有価証券評価損	28,298	-
特別損失合計	33,204	62,040
税金等調整前四半期純利益	433,198	371,324
法人税、住民税及び事業税	28,968	192,585
法人税等調整額	174,041	51,223
法人税等合計	203,010	141,361
少数株主損益調整前四半期純利益	230,188	229,962
少数株主利益	-	37
四半期純利益	230,188	229,925

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	230,188	229,962
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	88,015	315,418
為替換算調整勘定	-	161,095
その他の包括利益合計	88,015	476,514
四半期包括利益	318,203	706,477
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	318,203	705,151
少数株主に係る四半期包括利益	-	1,325

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後に取得した有形固定資産のうち定率法を採用するものについては、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。これによる損益への影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)
減価償却費	586,150千円	601,686千円
のれんの償却額	74,665	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年12月1日 至 平成24年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年2月21日 定時株主総会	普通株式	17,129	3	平成23年11月30日	平成24年2月22日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年2月26日 定時株主総会	普通株式	57,096	10	平成24年11月30日	平成25年2月27日	利益剰余金
平成25年6月27日 取締役会	普通株式	22,838	4	平成25年5月31日	平成25年8月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年12月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	自動車部品 事業	配電盤事業	ロボットシ ステム事業	モーター スポーツ事業	人材教育 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高								
外部顧客への売上高	10,685,599	1,957,017	2,034,389	205,685	203,598	15,086,290	-	15,086,290
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,373	40,391	103,747	-	3,228	148,741	148,741	-
計	10,686,972	1,997,408	2,138,137	205,685	206,827	15,235,032	148,741	15,086,290
セグメント利益又は損失 ( )	51,022	120,237	177,787	84	42,760	391,722	3,105	394,827

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額3,105千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、株式会社岡山国際サーキットを新たに連結子会社としたことにより、「モータースポーツ事業」においてのれんが74,665千円発生し、発生時に全額償却しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年12月1日至平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	自動車部品 事業	配電盤事業	ロボットシ ステム事業	モーター スポーツ事業	人材教育 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高								
外部顧客への売上高	9,127,083	1,563,130	2,038,536	685,943	190,047	13,604,740	-	13,604,740
セグメント間の内部 売上高又は振替高	957	10,960	26,608	750	2,629	41,904	41,904	-
計	9,128,040	1,574,090	2,065,144	686,693	192,676	13,646,645	41,904	13,604,740
セグメント利益	3,453	6,697	70,945	64,955	44,449	190,501	10,620	201,121

(注)1. セグメント利益の調整額10,620千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは中長期経営計画の策定にあたり管理区分を見直したことにより、第2四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しております。

変更後の報告セグメントは、「自動車部品事業」、「配電盤事業」、「ロボットシステム事業」、「モータースポーツ事業」及び「人材教育事業」であります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年12月 1 日 至 平成24年 8 月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年12月 1 日 至 平成25年 8 月31日 )
1 株当たり四半期純利益金額	40円32銭	40円27銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益金額 ( 千円 )	230,188	229,925
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 ( 千円 )	230,188	229,925
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	5,709,684	5,709,684

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

平成25年 6 月27日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....22,838千円

(ロ) 1 株当たりの金額..... 4 円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成25年 8 月 9 日

( 注 ) 平成25年 5 月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年10月9日

アスカ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

水野 裕之

印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

後藤 隆行

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアスカ株式会社の平成24年12月1日から平成25年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年12月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アスカ株式会社及び連結子会社の平成25年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBR Lデータ自体は含まれておりません。